

知の泉

Castalia

第 22 号
2015.09

東京外国語大学附属図書館報

---Contents---

02 館長巻頭言

03 東京外国語大学附属図書館史

06 東京外国語大学古本募金報告

07 平成 26 年度附属図書館公開講演会報告

09 平成 26 年度附属図書館特別展示会報告

10 図書館統計

12 図書館活動日誌・編集後記

館長巻頭言

附属図書館長 宮崎 恒二

大学は学びの場です。学びには、サークル活動なども含まれますが、それらが課外活動と呼ばれるように、何といたっても学びの主体は正課の活動です。その主な舞台となるのが、教室と図書館です。アクティブ・ラーニングという言葉をよく耳にするようになりましたが、近年、教室という空間でも、一方的な受け身の講義から、学生が主体的に考え、討論するアクティブ・ラーニングが重要視されるようになっていきます。図書館はというと、そもそも最初から、図書を参照し、資料を調べて考えるという利用者の皆さん自身の主体的な活動のための空間でした。また、多くの学生が集まり、様々なメディアから得られる情報を用いて議論する場をラーニング・コモンズと呼びますが、図書館はその原初形態でもあったわけです。

現在の図書館は、図書、資料やその閲覧空間、情報機器に加え、学生の自学自習を支援するスタッフや、議論を行うための空間を提供するラーニング・コモンズに発展しています。本学でも、ラーニング・コモンズとしての図書館の充実に力を注いでいます。学生の皆さんには、存分に図書館を活用していただきたいと願っています。

さて、「情報」について、少し触れておきましょう。まず、利用という側面からは検索の方法や技術といったことが、注目されます。他方、評価という側面からは、ネットに溢れる情報の質が問題になります。ネット情報の大部分は他の記事の二次的、三次的な利用によるものです。典拠の明らかな情報が止めどなくリサイクルされる場合もありますので、当然、それらの扱いには十分な注意が必要です。一般に、図書や刊行された資料は、情報の典拠や執筆・作成の手法について明らかにしていることが多いのですが、このような情報についても、その「質」を吟味してみる必要は十分にあります。

最後に、情報となる以前の情報について触れておきます。情報というと、すでに調理されたものが並んでいる印象を持ちます。何らかのプロセスを経て取捨選択あるいは歪曲変形されたものであることは、先ほど触れたとおりですが、情報を伝えるメディア自体もまた、重要な情報を伝えているのだ、ということを考えてみてください。図書館に所蔵されている本は、質量や装丁をもつ「モノ」です。その視覚的・触覚的な刺激から、作り手の意図を知ることができるでしょう。書棚や書庫もまた、情報の源泉となります。なぜ、この本がここにあるのか、どのような傾向の図書が並んでいるのか、考えてみたことはあるでしょうか。図書館の書棚は、何らかの方向に沿った知的努力の結果でありプロセスなのです。

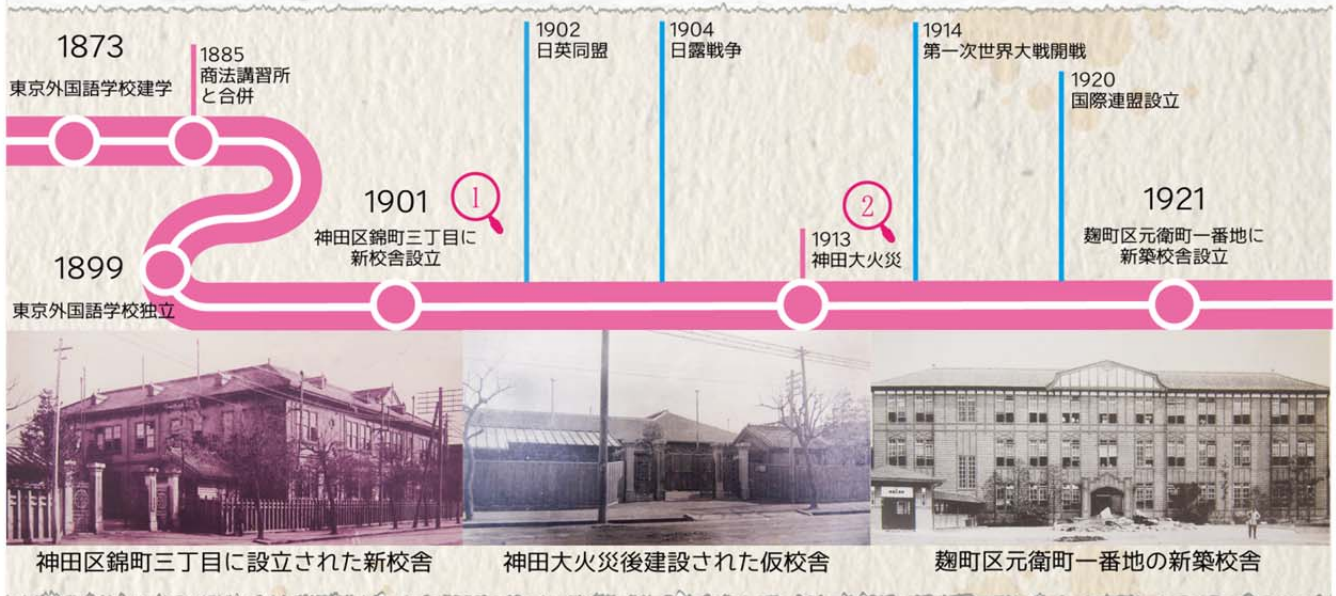
ラーニング・コモンズとしての図書館の利用は、情報として調理された情報の収集やそれに基づく議論に限られません。様々な観点から、定型化されていない様々な情報を引き出すことができる空間です。何を情報とするか、それこそが主体的な知の構築の重要なステップなのです。

東京外国語大学

附属図書館史



2023年に建学150周年を迎える東京外国語大学。その歩みは常に図書館と共にありました。建学当初の官立東京外国語学校図書閲覧所から現在の府中キャンパス附属図書館に至るまでの歴史を、写真とともに振り返ってみましょう。



① 建学・独立当初の図書館

建学当時の蔵書数は、仏独魯語書（5,264冊）、国書・漢書・訳書（936冊）など、合計6,997冊でした。

「書局規則」で定められた利用規則は、貸出禁止で、利用には教員や学校長の検印が必用とされるなど、かなり厳しいものだったようです。

1899年に独立した後は、新校舎1階の一角に図書閲覧室が設置されます。

錦町新校舎の図書閲覧室



② 神田大火災と図書館

神田大火災の類焼により、図書館では全体の6割弱にのぼる3,614冊が焼失しました。

しかし被災からの立ち直りは早く、焼失から7ヶ月後には、同じ敷地内に仮校舎が新築され、閲覧室と独立書庫が仮校舎の西北端に再建されます。

蔵書についても、日仏協会等からの寄贈や書店からの購入により、1914年3月時点で被災前を上回る8,513冊まで回復しています。

仮校舎の図書閲覧室



3 関東大震災と図書館

1921年に麴町の新築校舎が設立された際、図書館は鉄筋コンクリート・ブロック併用造二階建の独立棟になりました。

しかし間もなく、1923年の関東大震災によって書庫を除いて全焼してしまいます。

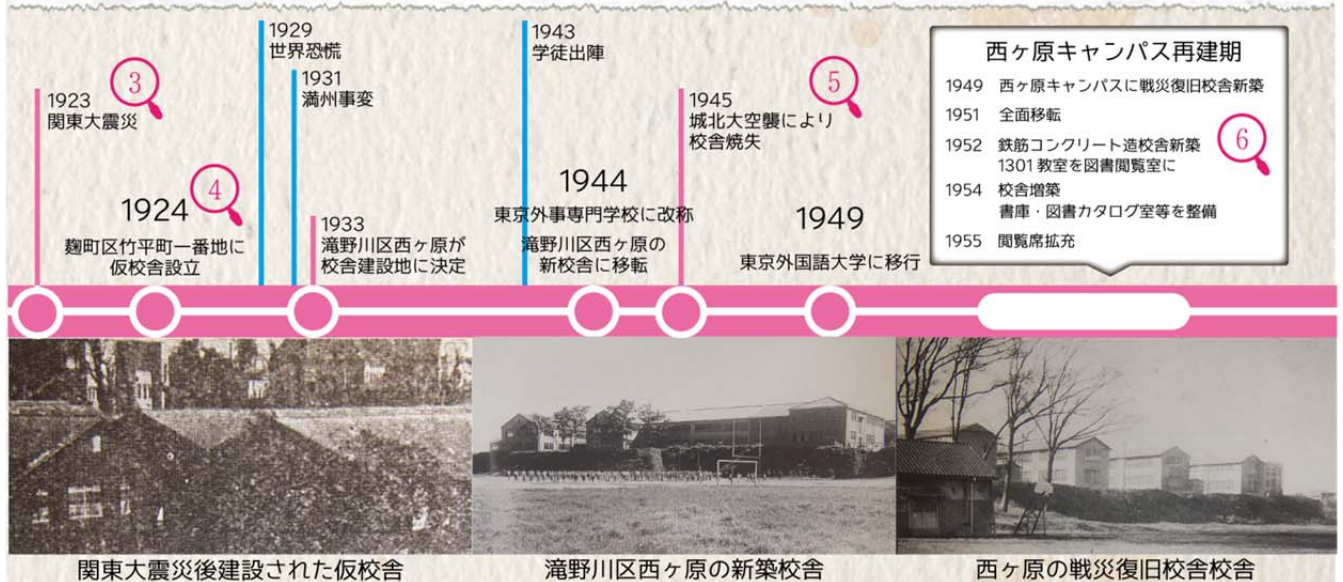
この時は1,593冊（全体の8%）の図書が焼失しました。

この大震災を契機に、長屋順耳学長（当時）によって明治維新前後を中心とした図書の収集が進められました。当館の貴重書コレクションは、この時に収集された図書が中心になっています。

4 仮校舎と図書館

関東大震災の翌年1924年に仮校舎を新築する際、図書館も閲覧室・事務室・書庫を揃えて再建されます。当初は、同年夏までの使用予定でしたが、結局はそのまま10年以上使用されることになります。

校友会機関誌『炬火』の第14号「外語批判」特集では、この頃の図書館について、分類カードのでたらめさや建物の汚さ、蔵書のアンバランスさに苦言が呈されています。



5 戦災と図書館

大学自体は1944年に西ヶ原キャンパスに移転していましたが、図書館の書庫は竹平町のままでした。

そのため、城北大空襲で西ヶ原の校舎が門衛所を残して焼失した際にも蔵書は無事だったのです。

それでも、当時西ヶ原校舎にあったと思われる4,053冊（全蔵書の約6%強）の図書と目録が焼失しています。

その後新校舎ができるまでは、東京美術学校・図書館講習所・美術研究所や、智山中学校校舎等の移転先で図書の利用が続けられました。

6 キャンパス再建と図書館

1951年に再建された西ヶ原キャンパスに改めて移転した当初は、まだ閲覧室・書庫等はありませんでした。

翌年の校舎新築時に1301教室を仮の閲覧室とし、1954年の校舎増築の際に書庫や閲覧室・事務室等が改めて整備され、図書館設備がひとまず整います。

書庫新築までの間は、豊島区西巣鴨の大正大学の校舎を借用しており、利用の際は係員が午前午後1回ずつ大正大学まで取りに行くという不便な状況が続きました。

1955年時の閲覧席の様子



7 西ヶ原キャンパスと図書館

1975 年頃には蔵書冊数が 20 万冊を超え、書庫の収容能力を上回ってしまいました。

そこで、鉄骨鉄筋コンクリート及び鉄骨造 7 階建ての図書館棟を 1 号館中庭に新築し、1979 年に開館しました。

新図書館では、開架方式の導入・電動書架の設置・ブックディテクション装置の設置・貸出条件の緩和・開館時間の延長など、利用者の利便性を配慮した運営が重視されました。

西ヶ原新図書館
閲覧席



8 新図書館開館

2000 年の府中キャンパスへ移転に伴い、図書館も新しい建物で開館しました。

新図書館は 4 階建てで、2 階から 4 階までの 3 層吹き抜けと大きなガラス窓によって、開放感と一体感のある構造になっています。

情報総合コラボレーションセンターの協力によって、PC や無線 LAN などの ICT 環境も充実し、府中キャンパスの情報基地として機能しています。

府中新図書館
閲覧席



1956
日ソ共同宣言
国際連合加盟

1972
日中国交回復

1989
冷戦終結

2001
米同時多発テロ

2011
東日本大震災

1962
新分類体系開始

1979 7
図書館棟を新築

1990
図書館システム導入

2000 8
府中市朝日町に移転

2012 9
TUFS-ラーニング
commons
サービス開始



図書館棟新築後の西ヶ原キャンパス



府中市朝日町の新築図書館



TUFS-ラーニングcommons @ ラボ

9 TUFS-ラーニングcommons

2012 年 4 月にサービスを開始した TUFS-ラーニングcommons (愛称@ラボ) は、グループ学習ゾーン・PC ゾーン・学習相談デスクを備えています。

移動式のテーブルとホワイトボードの他に、ノート PC やプロジェクタなどの貸出物品も用意されており、学生の皆さんが自由に集まって学習できるスペースとしてデザインされています。

また、学習相談デスクには他言語コンシェルジュ (本学大学院生) が待機しており、様々な言語・分野を研究している先輩に、レポート・論文の書き方や留学経験談などを気軽に質問することができます。

サービス開始以降、多くの学生の方に利用されている人気のスペースになっています。

いかがだったでしょうか。東京外国語大学は、その長い歴史の中で多くの困難を乗り越えてきました。そして図書館もまた、度重なる災害を乗り越え、蔵書の収集・保全と学習環境の提供に努めてきました。

2015 年現在、当館は 260 を超える言語の資料を有し、蔵書数は 70 万冊を超えています。また、それらの資料を原綴り (原語の文字での表記) で扱える多言語対応の図書館システムを備え、各言語資料の検索サービス等を提供しています。

これからも国立大学唯一の「外国語大学」附属図書館としてふさわしい蔵書構築とサービス提供に努めて参ります。

東京外国語大学古本募金報告

「東京外国語大学古本募金」(<http://www.furuhon-bokin.jp/tufs/>)をご存じですか？

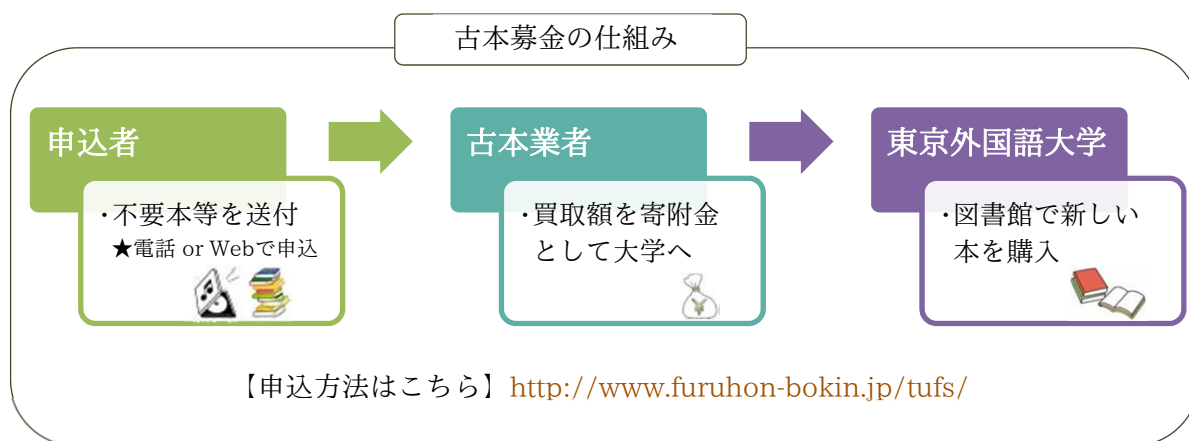
平成 26 年 8 月 4 日にスタートした、附属図書館に新しい本を購入することを目的とする寄附プロジェクトで、本学の卒業生を中心に多くの方のご協力をいただいています。

古本募金とは？

仕組みは図のとおりです。皆さんの本が本学の提携する古本業者に買い取られ、その買い取り額を本学が寄附金として受け取り、附属図書館の新しい蔵書を購入します。



一般書籍だけでなくマンガや洋書も受け付けてもらえますし、CD、DVD やゲームソフトも買い取りの対象になります。5 点以上まとまれば送料は無料です。ご不要のものがありませんでしたら古本募金をご利用ください。



寄附額及び使途について

プロジェクト初年度（平成 26 年度）及び開始から 1 年間の寄附額等は下表のとおりです。寄附額のうち約 8 割が卒業生及びそのご親族からの寄附でした。東京外国語大学へのご支援に御礼申しあげますとともに、引き続き、ご協力をお願い申しあげます。

期間	金額	人数	冊数
平成 26 年度（8 ヶ月間） 平成 26 年 8 月～27 年 3 月	52 万 8,347 円	236 人	26,075 冊
事業開始から 1 年間 平成 26 年 8 月～27 年 7 月	73 万 1,085 円	362 人	38,499 冊

寄附金は、本学学生からのリクエスト図書の購入に使用しております。平成 26 年度は、56 冊 253,547 円の図書を購入しました。詳細は以下でご確認いただけます。

http://www.tufs.ac.jp/library/guide/furuhon/furuhon_h26booklist.pdf

平成 26 年度 附属図書館公開講演会報告

【講演会概要】

附属図書館では、社会貢献のひとつとして公開講演会を毎年開催しています。平成 26 年度は、当館と相互利用に関する覚書を結んでいる日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館との共催により、12 月 1 日（月）16 時 30 分からアゴラ・グローバル プロメテウス・ホールにおいて、武内進一先生による講演「アフリカの紛争と平和構築—外大生がアフリカに会うとき」を行いました。

講演後の質疑応答も活発に行なわれ、大変充実した講演会となりました。

講演要旨

「アフリカの紛争と平和構築

—外大生がアフリカに会うとき」

日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター次長 武内進一氏



私は東京外国語大学外国語学部フランス語学科在学中に派遣員としてフランス語圏であるアフリカの在チュニジア日本国大使館に 2 年間勤務し、アフリカに興味を持ちました。卒業後はアジア経済研究所で中部アフリカ仏語圏を担当し、農村調査のため 1992 年にコンゴ共和国のブラザヴィルに赴任しました。赴任直後から政治が不安定化し、遂には内戦状態になって、国外に待避したり戻ったりしながらの調査でした。そのような中でアフリカの紛争と平和の問題に関心を持つようになりました。

アフリカの紛争では一般に部族対立のイメージが持たれます。しかしコンゴでの経験から、「政治家、政党、民兵、部族」のつながりがあることがわかり、部族ありきの全面对決ではなく、有力な政治家が作るネットワーク同士の対立ではないかと掴めてきました。

アフリカの紛争には国家の構造が関係します。アフリカではしばしば指導者が国家を私物化し金やポストをばらまくことで政治的支持を確保してきました。このようなパトロン・クライアント（親分子分）関係は、植民地支配からの独立後、特にその一党制の下で形成・発達してきました。それは統治を安定化させる装置でもあったのですが、次第にこうした形で政治を安定させることができなくなってきました。それが 1990 年代のアフリカにおける紛争多発につながります。紛争多発の背景要因として、長期的な経済危機と冷戦後の急速な民主化による権力闘争の激化を挙げることができます。

アフリカ諸国では 1970 年代半ばから 1990 年代半ばまで経済が停滞したため、パトロンが分配できる資源の量が減少しました。また、冷戦期には一党制や軍政が主だった政治体制が 1990 年代になると一斉に多党制に変わりました。多党制への移行には民主化運動の高まりなど様々な要因がありますが、最も重要なものは冷戦終結による援助政策の変化です。長期の経済危機のため民間資本がほとんど入ってこないアフリカにとって頼りは ODA（政府開発援助）でした。冷戦時の援助は東西両陣営が被援助国を自陣へ囲い込むためのもので援助側は政治体制を問題にしませんでしたが、囲い込みの必要がなくなった冷戦終結後は援助の前提として民主化が要求されるようになりました。これが多党制への急速な体制変更の背景となったのです。さらに多党制への移行は有力政治家（＝パトロン）を増やし、パトロン・クライアント関係という国家を支えるネットワークの分裂を促しました。この分裂したネットワーク同士のぶつかりが 1990 年代の紛争の仕組みなのです。

私は 2009 年～2012 年に JICA（独立行政法人国際協力機構）研究所に出向し、紛争をどのように解決し平和を達成していくのかを考える機会を得ました。紛争後の復興と平和維持のための活動は 1990 年代半ばから活発に行なわれてきました。国連だけでなく JICA などの開発援助機関や NGO も関与し、PKO（平和維持活動）、人道支援活動、開発援助などを通じて平和構築に取り組んでいます。平和構築においては、紛争を再発させない国造り、「国家建設」（Statebuilding）が重要です。この実現の為、国際社会は、元戦闘員を武装解除・動員解除して市民の暮らしに戻す「DDR」、軍・警察を人々に信頼されるような民主的な組織に作り直す「SSR」、過去の克服のため問題を解明し歴史に残す「真実和解委員会」（アパルトヘイト廃絶後の南アフリカの取り組みが有名）などの活動を積極的に行っています。

2000 年代に入りアフリカの紛争や犠牲者は減ってきていますが、紛争が止まっているという状態であって終わったわけではありません。平和構築ができているのか？という意味では疑問符がたくさんあります。本来「国造り」とは、その国の人々が主体的に行なうものです。欧米や日本は長い時間をかけて自ら国を造ってきましたが、アフリカでは、独立して半世紀くらいの短い期間に国際社会が主導して国造りをしているのが現状で、道のりは非常に困難です。しかし、いざ紛争が起これば、国際社会は、人道的・倫理的見地から、またテロ防止を含む国際安全保障の観点からこれを放置することができません。このジレンマの中で平和構築に取り組まざるを得ないのです。

紛争と平和の問題には 100 点満点の回答はありません。よりましな方法を探していくということが重要です。私自身は、アフリカに関わる中で偶然にこの問題に当たって迷い込んできました。紛争と平和について考えていくと、理論的な答えがなく陰惨でもあり、暗くなりがちですが、アフリカとアフリカの人々は魅力的です。人々の日々の営みを見る中からヒントを得たい、またそこにしか答えはないだろうと思っています。

本講演の資料がアジア経済研究所の Web ページで公開されています。

以下より閲覧ください。

http://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/pdf/201411_handout.pdf

周縁から読む現代社会－アジア・アフリカの「マイノリティ」－

附属図書館は、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館と相互利用に関する覚書を結んでいます。このご縁から、平成 26 年度は、アジア経済研究所図書館にご協力いただき、アジア・アフリカのマイノリティに関する図書の展示会を行いました。

【会期】平成26年11月10日(月)～12月19日(金)

【場所】 附属図書館 3 階閲覧テラス

以下の 8 つの「マイノリティ」を取り上げ、6 言語（日本語、英語、中国語、韓国/朝鮮語、タイ語、アラビア語）217 タイトルの図書を、見学者が自由に手に取れる形で展示しました。

「マイノリティ全般」、「中国のウイグル族」、
「中国の朝鮮族」、「日本に暮らす外国人女性」、
「タイのムスリム」、「スリランカのタミル人」、
「エジプトのコプト人」、「アフリカの難民」

附属図書館からも、会期内（12 月 1 日）に行われた公開講演会「アフリカの紛争と平和構築－外大生がアフリカと出会うとき」にちなみ、「アフリカと出会う」と題して、紛争及び平和構築に関するものを中心に、アフリカを深く知るための図書 28 冊を展示しました。



見学者からは、興味が広がった、新たな知識を得られたなど好評でした。広く世界を学ぶ本学の学生とっても、大変有益な展示会となりました。

展示図書の詳細は、附属図書館 HP に以下の URL で
公開しておりますのでご覧ください。

- ・展示図書リスト（アジア経済研究所図書館蔵書）

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/shokai/tenji15-1.pdf>

- ・雑誌記事・論文リスト（アジア経済研究所図書館作成）

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/shokai/tenji15-2.pdf>

- ・アフリカと出会う 28 冊 (東京外国語大学附属図書館蔵書)

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/shokai/tenji15-3.pdf>

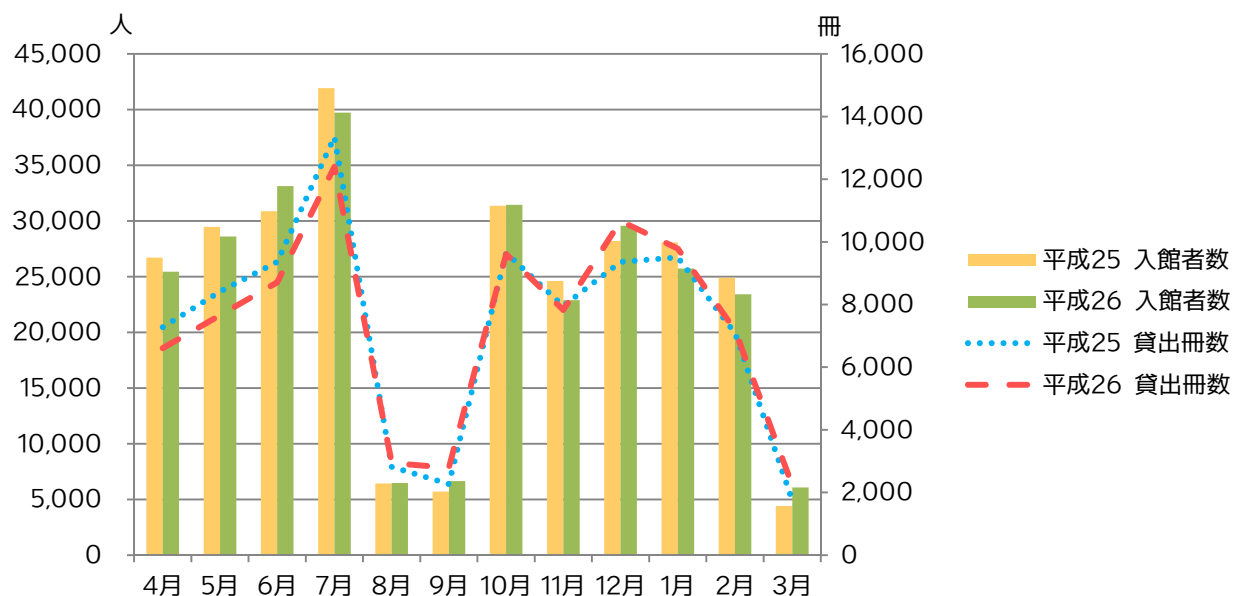
なお、本学の学生及び教職員は、アジア経済研究所図書館を直接訪問して図書を借りることができます。詳細は以下をご確認ください。

<http://www.tufs.ac.jp/library/service/tokutei-j.html>

図書館統計

入館者数・貸出冊数 同月比較

【平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）、平成 26 年度（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）】



入館者数・貸出冊数・開館日数・開館時間数

	平成 25 年度		平成 26 年度	
	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数
4 月	26,711	7,278	25,450	6,605
5 月	29,469	8,412	28,605	7,653
6 月	30,885	9,362	33,137	8,705
7 月	41,931	13,351	39,736	12,399
8 月	6,436	2,818	6,480	2,936
9 月	5,693	2,267	6,645	2,789
10 月	31,363	9,646	31,449	9,610
11 月	24,606	7,949	22,893	7,824
12 月	28,210	9,360	29,566	10,662
1 月	28,077	9,506	25,736	9,787
2 月	24,895	7,085	23,418	7,182
3 月	4,412	1,754	6,072	2,228
合 計	282,688	88,788	279,187	88,380
開館日数	295		295	
開館時間	3,038		3,031	

図書館ホームページではより詳細な内容がご覧いただけます。

≪ 入館者数 ≫

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_visitors.pdf

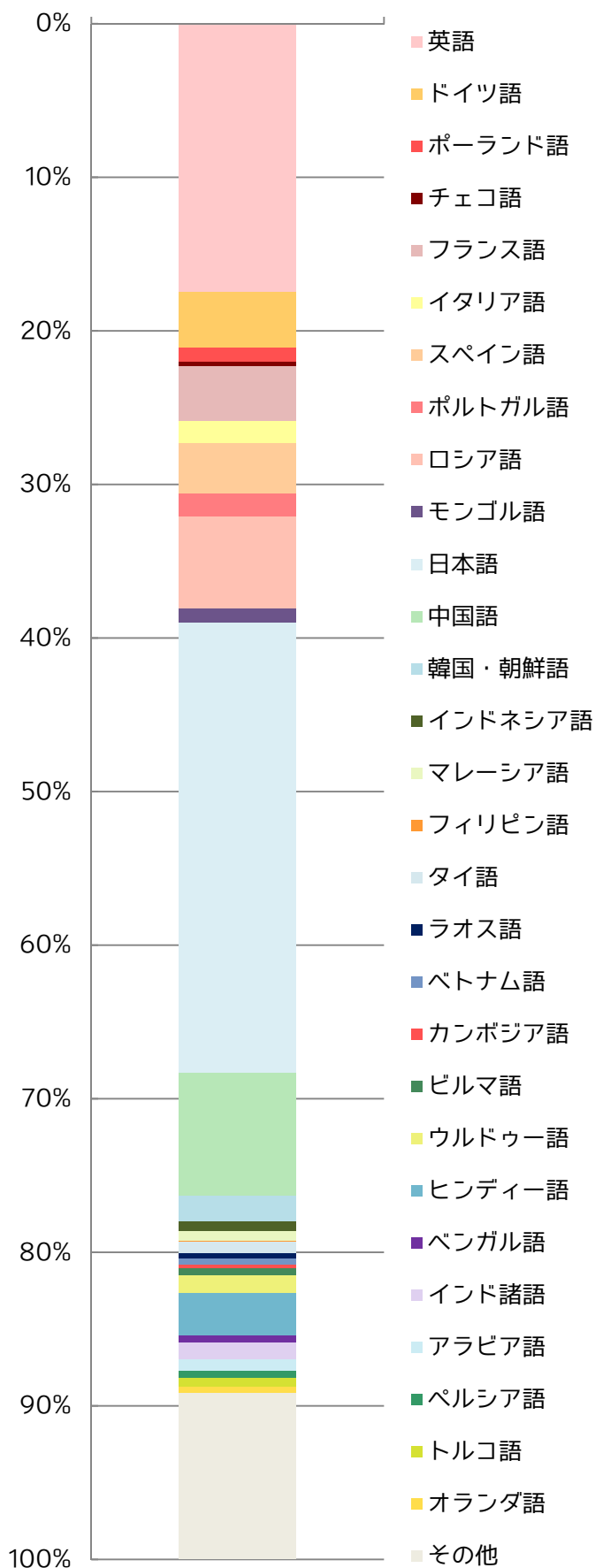
≪ 貸出冊数 ≫

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_loan.pdf

附属図書館・言語別所蔵冊数

【平成 27 年 4 月現在】アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書は除く

言語名	冊数	割合
英語	123,176	17.48%
ドイツ語	25,472	3.62%
ポーランド語	6,577	0.93%
チェコ語	2,105	0.30%
フランス語	25,038	3.55%
イタリア語	10,134	1.44%
スペイン語	23,302	3.31%
ポルトガル語	10,195	1.45%
ロシア語	42,110	5.98%
モンゴル語	6,802	0.97%
日本語	206,593	29.32%
中国語	56,419	8.01%
韓国・朝鮮語	11,368	1.61%
インドネシア語	4,843	0.69%
マレーシア語	4,254	0.60%
フィリピン語	365	0.05%
タイ語	5,399	0.77%
ラオス語	2,225	0.32%
ベトナム語	3,151	0.45%
カンボジア語	1,305	0.19%
ビルマ語	3,540	0.50%
ウルドゥー語	8,013	1.14%
ヒンディー語	19,520	2.77%
ベンガル語	3,213	0.46%
インド諸語	7,526	1.07%
アラビア語	5,579	0.79%
ペルシア語	3,219	0.46%
トルコ語	4,083	0.58%
オランダ語	2,789	0.40%
その他	76,256	10.82%
合計	704,571	



☞ 図書館活動日誌（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

【活動】

- 4 月 1 日 東京外語会卒業生会員への貸出サービス開始
- 4 月 9 日 図書館オリエンテーション（全 3 回 ～ 11 日）
- 4 月 15 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分講義「附属図書館利用案内」（全 3 回 4 月 17 日・21 日と計 3 日間）
- 4 月 15 日 リクエストガイダンス（全 24 回 ～ 2015 年 2 月）
- 4 月 22 日 OPAC（蔵書検索）ガイダンス（全 3 回 ～ 25 日）
- 5 月 7 日 世界教養科目「日本の出版文化」第 3 回「図書館と書物」担当
- 5 月 21 日 テーマの決め方ガイダンス（多言語コンシェルジュ企画）（全 4 回 ～ 29 日）
- 6 月 2 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分講義「情報検索演習」（全 3 回 6 月 3 日・5 日と計 3 日間）
- 6 月 11 日 平成 26 年度第 1 回図書館委員会
- 6 月 23 日 情報検索ガイダンス（全 4 回 ～ 27 日）
- 6 月 25 日 レポートの書き方を知る（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～ 26 日）
- 6 月 25 日 平成 26 年度第 1 回選書委員会
- 7 月 19 日 土日拡大開館実施（開館時間を 13:00 から 9:00 に変更 7 月 20 日・26 日・27 日と計 4 日間）
- 7 月 26 日 オープンキャンパス図書館見学
- 8 月 4 日 東京外国語大学古本募金開始
- 8 月 19 日 韓国外国語大学関係者来訪
- 9 月 30 日 図書館館報「Castalia」21 号発行（インターネット公開）
- 10 月 15 日 学部生向け卒論ガイダンス（図書館及び多言語コンシェルジュ企画）（全 11 回 ～ 11 月 10 日）
- 11 月 5 日 平成 26 年度第 2 回選書委員会
- 11 月 10 日 平成 26 年度附属図書館特別展示（「周縁から読む現代社会ーアジア・アフリカの「マイノリティ」～ 12 月 19 日）
- 11 月 22 日 オープンキャンパス図書館見学（11 月 20 日～ 24 日は外語祭キャンパスツアー図書館見学も実施）
- 12 月 1 日 平成 26 年度附属図書館公開講演会（武内進一 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター次長）「アフリカの紛争と平和構築ー外大生がアフリカに出会うとき」
- 12 月 15 日 学生アンケートを実施（～平成 27 年 2 月 28 日）
- 1 月 31 日 土日拡大開館実施（開館時間を 13:00 から 9:00 に変更 2 月 1 日・7 日・8 日と計 4 日間）
- 1 月 28 日 平成 26 年度第 3 回選書委員会
- 3 月 2 日 平成 26 年度第 2 回図書館委員会
- 3 月 4 日 学術認証フェデレーション「学認(GakuNin)」によるオンラインサービスのリモートアクセス開始
- 3 月 13 日 選書ツアー 多言語コンシェルジュほか 4 名参加（於 紀伊國屋書店新宿本店）
（ヤンゴン大学 Global Japan Office に配置する日本語図書の選定）
- 3 月 24 日 北京外国語大学党委員会書記来訪

【学外会議・研修等】

- 4 月 18 日 国立大学図書館協会東京地区協会総会 2 名参加（於 東京工業大学）
- 6 月 12 日 東京西地区大学図書館協議会加盟館会議 3 名参加（於 国立音楽大学）
- 6 月 19 日 第 60 回国立大学図書館協会総会 2 名参加（於 代々木）※研究集会での海外派遣報告に 1 名派遣
- 8 月 26 日 東京西地区大学図書館協議会サマーセミナー 1 名参加（於 東京経済大学）
- 9 月 9 日 平成 26 年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー 3 名参加（於 東京大学）
- 10 月 1 日 国立情報学研究所平成 26 年度第 4 回目録システム講習会（図書コース）講師 1 名派遣（～ 3 日）
- 11 月 10 日 TAC 図書館合同会議（館長会議、図書館部会） 3 名参加（於 国際基督教大学）
- 11 月 11 日 大学図書館職員短期研修 1 名参加（於 東京大学）（～ 14 日）
- 11 月 20 日 東京西地区大学図書館協議会秋季セミナー 1 名参加（於 明星大学）
- 12 月 10 日 TAC 図書館員交流会 2 名参加（於 国立音楽大学）
- 2 月 23 日 国立大学図書館協会東京地区協会研修会 2 名参加（於 国文学研究資料館）
- 3 月 4 日 TAC 図書館部会会議 2 名参加（於 国際基督教大学）

☞ 編集後記

今号の特集記事は図書館の歴史です。本学の前身である「東京外国語学校」時代から数えると 100 年以上、時々の学生や先生方に寄り添ってきました。図書館の書庫 1 層には建学から 1962 年 3 月までに受け入れた蔵書「旧分類図書」が配置されています。大学や図書館の歴史に思いをはせつつ、一度、手に取ってみられてはいかがでしょうか？

Castalia：東京外国語大学附属図書館報 第 22 号

2015 年 9 月 30 日発行

発行：東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5193 ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/library/index-j.html>